

退職にあたり思うこと 加藤 眞 治



小学校の時、興味のあるテーマで新聞をスクラップする宿題が出ました。核融合についての記事を探し切り抜きました。どのような記事だったか全く記憶にありませんが「そんな夢のような技術が有るならドーンと予算を注ぎ込み、すぐにも実現すべき」というのが小学生だった私の感想でした。

その後、岡崎の分子科学研究所で実験装置を設計、製作する仕事を14年程経験した後、縁有って平成8年4月より核融合科学研究所に異動となりました。核融合研に着任した当時は、核融合プラズマの燃料である水素をガス又は固体で供給する装置の仕事に就きました。週の前半は東山サイトで計測ペレットの開発実験の補助、週の後半は土岐サイトでパイプガン方式のペレット入射装置とガスパフの立ち上げに参加しました。

その後、所属が変わると共にプラズマ中の電場を測る重イオンビームプローブ装置の本体室への移設立ち上げに始まり、マルチイオン源の設計、曲率半径4.8メートルの円筒偏向電極クリーニング治具の設計などを行いました。

オープンキャンパスのロボット工作担当時、左右に揺れながら進む歩行ロボットの部品を当日までに100セット、準備する必要がありました。試作品は、その場で回転するばかりで前に進んでくれません。自分がロボットになったつもりで考え、何とか完成しました。いよいよ量産、部品の一寸した加工でも1工程1分で処理しても100セットとなると100分です。見かねて、手伝っていただいた当時技術部事務担当の佐藤さん他、関係者の方には大変お世話になりました。

最後に今関心が有るのは3Dプリンターと再生可能エネルギーです。電気自動車の普及と共に安価でより高性能な蓄電池が開発されれば風力、太陽光と組み合わせ・・・。

次世代電池の開発にドーンと予算を注ぎ込んで欲しいと思うこのごろです。

(技術部 製作技術課 機械整備技術係長)

TOPICS

トピックス

第13回労働安全衛生に関する情報交換会を開催

2月1日、2日に核融合科学研究所で、労働安全衛生法に基づく各機関の取り組みや活動状況及び課題等の情報交換を目的とする「労働安全衛生(安全衛生法対応等)に関する情報交換会」が開催されました。これは、法人化後の平成16年度からほぼ年1回の頻度で企画開催しているもので、13回目となる今回は初参加の鳥取大学を含め、大学・大学共同利用機関等18機関から安全衛生に関わる技術職員を中心に事務職員、研究職員、大学等環境安全協議会評議員及び労働衛生コンサルタントを交えた約60名の参加がありました。



情報交換会の様子

今回は、10機関からの参加者より放射線管理、PCB・防虫剤等への対応、防火・防災及び安全・衛生教育への取り組み等に関する13件の報告が行われました。



18機関の技術職員らによる記念撮影

特に、防災訓練の実施要領や、水銀の廃棄、粉塵の除去、作業記録の整備等の労働安全衛生法に基づく対応では、具体的で示唆に富んだ取り組み事例が多数報告され、質疑応答も積極的に行われるなど、有意義な情報交換会となりました。

参加者からは「実験現場の見学を通じて、安全・衛生管理両面から各事業所における管理レベルの評価や、事業所間の相互比較をすることができた。」と好評でした。